

はじめに

本研究所は、89 年以上の歴史を有し、その間に金属を中心にした物質・材料の学理と応用の研究・教育を行い、学術、科学技術において幾多の貢献を成すとともに社会で広く活躍する多くの人材を輩出して来ました。1987 年には全国共同利用型研究所に改組され、現在、金属および関連する広範囲の物質・材料の学術、科学技術の先端研究の卓越した研究拠点（COE）として、日本はもとより全世界から研究者が集まり、本所の研究部門との共同研究ならびに施設設備利用型の研究などが活発に展開されています。

また、本研究所の最も大きな使命である先端新素材開発を目指した研究では、個々の研究者の個性豊かな創造性に依拠することはもとよりですが、個々の連携による大型プロジェクト研究の遂行も益々重要になってきています。その意味で本研究所は 2001 年 4 月よりスタートした第 II 期の科学技術基本計画による各省庁大型研究に積極的に参画し、基礎研究の成果を社会に役立てる任務があります。

この任務を果たす一つの方策として、本研究所が行った研究・教育・社会貢献を中心とした活動を積極的に社会に発信することが必要であると判断し、2004 年 4 月の法人化に際し、副所長を室長とする情報企画室を発足させました。ここには、従来の図書室、広報室、点検評価室、総合ネットワーク運用室が含まれます。情報企画室の発足に当たっては、それまでスーパーコンピューターに付随し、計算材料科学センターに負担をかけて来た本所のネットワークを物理的に切り分ける大掛かりな作業を実施しました。本報告書も研究企画調整委員会（2001 年までは自己点検評価委員会）の下で委員長（2003 年度は前川禎通委員長）が室長を兼ねる点検評価室によって作成されてきましたが、改組後の 2004 年 4 月からは副所長が直轄する“点検評価担当”（副所長と専任助手で構成）がその任に当たります。初代情報企画室長は花田修治副所長が務め、2005 年 4 月からは長谷川雅幸副所長に交代しました。

本報告書は、教員、事務職員、技術職員の全所を挙げた協力の下に、点検評価担当が膨大なデータを収集して纏め上げたものですが、この中の教員個人のデータの大部分は、2002 - 2003 年版同様、東北大学情報データベース（2004 年 12 月に稼動開始）に収録されたものが利用されています。当該データベースは本学全体の評価を視野に構築されており、長谷川点検評価担当教授はその部局評価責任者、小野瀬点検評価担当助手は部局運用責任者でもあり、法人化に伴う全学的な評価体制との有機的な連携を保てるようにしています。

本報告書の使命は研究・教育および社会貢献の活動状況を広く一般社会に公開し、納税者への説明責任を果たすこと、専門的立場あるいは一般社会的立場からの評価を受け、もって自ら将来の発展に資すること、および社会貢献資料の一端とすることです。特に今回刊行する本書には、法人化後初の 1 年間の研究・教育活動および社会貢献の詳細が纏められています。本報告書が本研究所の発展にとって必要不可欠な評価・ご批判のための貴重な基礎資料として、ご検討頂けますことを切に願うものであります。

2005 年 7 月

東北大学金属材料研究所

所長 井上 明久